

# 経済・金融 フラッシュ

## 鉱工業生産 12年10月 ～10月の生産は予想外の上昇

経済調査部門 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 市場予想を大きく上回る4ヵ月ぶりの上昇

経済産業省が11月30日に公表した鉱工業指数によると、12年10月の鉱工業生産指数は前月比1.8%と4ヵ月ぶりの上昇となり、事前の市場予想（QUICK集計：前月比▲2.0%、当社予想は同▲2.5%）を大幅に上回った。鉱工業生産の実績値（速報）が事前の市場予想を上回ったのは、12年1月以来9ヵ月ぶりとなる。

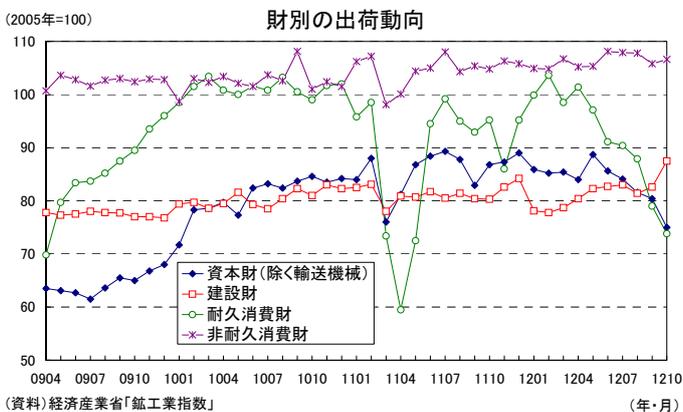
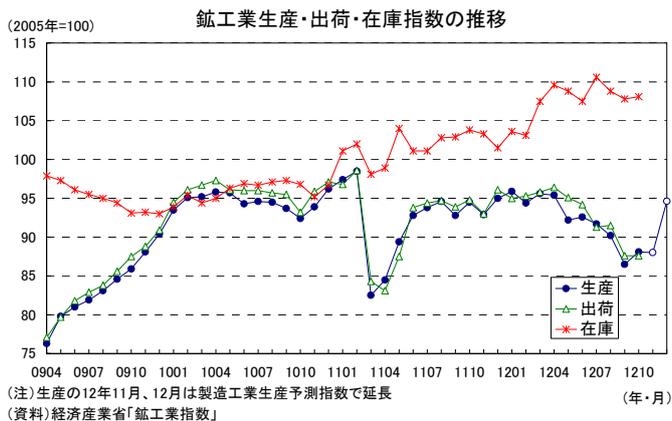
出荷指数は前月比0.0%の横ばい、在庫指数は前月比0.3%と3ヵ月ぶりの上昇となった。

10月の生産を業種別に見ると、情報通信機械は9月の前月比▲8.4%に続き、同▲15.3%と大幅減産が続いたが、在庫調整の進捗が見られる電子部品・デバイスが前月比14.7%の高い伸びとなったことに加え、5月からの5ヵ月で25.9%の落ち込みを記録した輸送機械が前月比1.1%と小幅ながら上昇に転じた。

速報段階で公表される16業種中、8業種が前月比で上昇、7業種が低下（1業種が横ばい）した。

財別の出荷動向を見ると、設備投資のうち機械投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）は12年7-9月期の前期比▲4.8%の後、10月は前月比▲6.7%となった。また、建設投資の一致指標である建設財出荷は12年7-9月期の前期比0.6%の後、10月は前月比5.9%となった。

GDP統計の設備投資は12年7-9月期に前期比▲3.2%と大きく落ち込んだ。建設投資は底堅さを維持しているものの、機械投資の



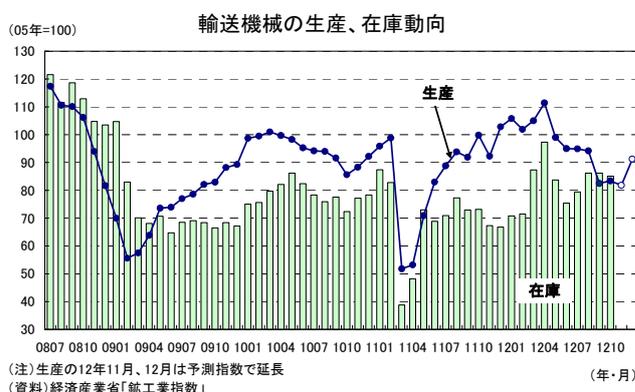
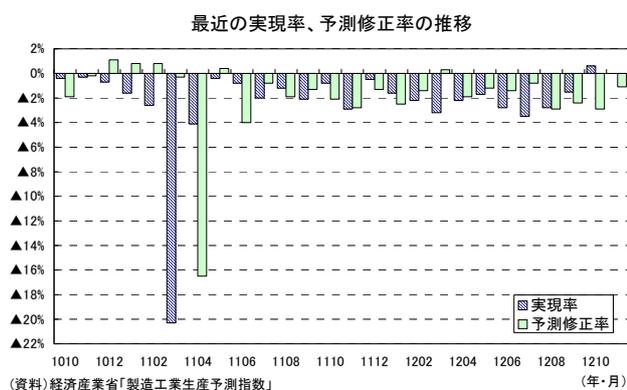
落ち込みが続いているため、設備投資は10-12月期も低調な動きが続く可能性が高いだろう。

消費財出荷指数は12年7-9月期の前期比▲6.1%の後、10月は前月比▲1.2%となった。非耐久消費財は前月比0.8%と4ヵ月ぶりに上昇したが、耐久財が前月比▲6.6%と大きく落ち込んだ。

## 2. 生産は年末から年明けにかけて底入れを探る展開へ

製造工業生産予測指数は、12年11月が前月比▲0.1%、12月が同7.5%、生産計画の修正状況を示す実現率（10月）、予測修正率（11月）はそれぞれ0.6%、▲1.1%となった。

実現率がプラスとなったのは10年8月以来2年3ヵ月ぶりである。日中関係悪化による影響が先月時点（調査の提出期日は10/10）で企業が想定していたほど大きくなかったことを示唆している可能性もあるだろう。



予測指数を業種別に見ると、11月は電子部品・デバイスの高い伸び（前月比9.7%）を、情報通信機械（同▲5.8%）、鉄鋼（同▲2.3%）、輸送機械（同▲1.9%）の落ち込みが打ち消す形となっているが、12月は電子部品・デバイス（前月比10.5%）、情報通信機械（同10.2%）、輸送機械（同11.5%）の3業種が二桁の伸びとなり、マイナスは非鉄金属（同▲1.1%）の1業種にとどまっている。

12年10月の生産指数を11月、12月の予測指数で先延ばしすると、12年10-12月期は前期比0.8%の上昇となる。

現時点では生産低迷の主因である輸出の下げ止まりが確認されていないこと、実現率がプラスとなったのは一時的で、来月以降は再び実績が計画を下回る可能性があることなどから、先行きについては慎重に見る必要があるだろう。ただ、少なくとも7-9月期の前期比▲4.2%から減少幅が大きく縮小することは確実で、急激な落ち込みが続いてきた鉱工業生産は年末から年明けにかけて底入れを探る展開となりそうだ。

なお、12月の予測指数は前月比では7.5%の高い伸びとなっているが、前年比では▲5.4%のマイナスとなっており、必ずしも強気の生産計画とは言えない。季節調整の歪みといった技術的な要因で前月比の伸びが高めにしている可能性もあることには留意が必要だろう。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。